

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

< 目 次 >

- 1 【事例紹介 9】 「岩泉小学校実践区（岩泉町）」 《家庭学習》
 「沼袋小 P T A（田野畑村）」 《読書推進》
 「茂市教育振興運動推進協議会（宮古市）」 《読書推進》
 - 2 【家庭学習】 見通しを持たせることの大切さ
 - 3 【読書推進】 レッツ！読み聞かせ（最終回）
 ～読み聞かせ方「まとめ編」～
 - 4 【教振は今】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 5 【みんなの声】 ペっこ言い隊
 - 6 【編集後記】 あつしのひとりごと
-

- 1 【事例紹介 9】 「岩泉小学校実践区（岩泉町）」 《家庭学習》
 「沼袋小 P T A（田野畑村）」 《読書推進》
 「茂市教育振興運動推進協議会（宮古市）」 《読書推進》

今回は、宮古地区から 3 つの事例を紹介します。

- (1) 岩泉小学校区では、「まなびフェスト」を保護者に配布するだけでなく、子ども用を掲示して、日頃から子どもたち自身に意識付けをはかっています。達成の評価に保護者も入り、次年度への改善につなげています。

事例⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_iwaizumi.pdf

- (2) 沼袋小学校 P T A では、保護者と教員による「協働による授業」や図書委員会が保育所の子どもたちに読み聞かせをしています。年 2 回の実態調査で、児童の読書習慣の定着を確認しながら進めています。

事例⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_numabukuro.pdf

- (3) 茂市地区教育振興運動実践協議会では、6 年間の継続した読書指導をおこなっています。学年ごとに「これだけは読んでほしい本」を選定し、6 年間で少なくとも 100 冊の選定図書を読むような取組をしています。

事例⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_moichi.pdf
資料⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_moichi2.pdf

2 【家庭学習】 見通しを持たせることの大切さ

毎日毎日、努力しているのに……。やみくもに努力しても成果があがらない時、「どうせ、自分はダメなんだ」と子どもはすぐにあきらめがちです。これは、勉強に限らず、スポーツでも、何でも言えることでしょう。

それは、毎日努力を蓄積していけば、それに比例するように上達する、毎日成果が表れると考えてしまいがちだからです。しかし、事実はそうではありません。努力は毎日毎日、コツコツと重ねていかなければなりません。上達や成果は毎日表れず、「壁」を越えたときに急激に訪れるのです。

自転車に乗る練習を思い出してください。乗れずに、転んでばかりの毎日だったのが、あきらめずに毎日続けていたら、ある日突然乗れるようになったという経験を皆さんもお持ちだと思います。上達や成果は、毎日少しずつ銀行に預けていたものを、一度にドーンと返してもらうように表れるのです。

ですから、子どもには、努力と成果の表れ方の違いを説明し、すぐに成果が出なくても、投げ出さずに続けるように励ましたり、「いつ、その成果が表れるのか」の見通しを持たせたりしてほしいと思います。

落語の世界には「小咄百話」、和裁の修行にも「まず百枚縫え」、将棋を覚えるのに「まず百回指してみろ」・・・と、「100回」というキーワードがあります。科学的な根拠やデータがあるわけではありませんが、初心者が「壁」を越え、毎日の努力の成果が表れる目安が、この「100回」ではないでしょうか。

計算の仕方を覚える時、「100回やったら覚える、出来るようになる」と子どもに見通しを持たせたら、子どもも頑張る意欲が出てくることでしょう。1日2問しかやらないなら出来るまで50日かかる。1日20問ずつやったら、5日で出来るようになる・・・、どっちがいい？ってね。

「毎日続けていけば、必ず出来るようになる。でもね、一日分の努力で、一日分の上達が訪れるわけではないんだ。毎日、努力していても、ちっとも成長しない日が続くけど、その努力は君の体の中に蓄えられ、100回（又は100日）蓄えることが出来たら、一気に目に見えるようになるんだよ。だから、頑張ろうね。」そう、子どもを励ましてあげてください。

見通しのないやみくもな努力より、見通しのある努力のほうが、やる気も持続するものです。

3 【読書推進】レッツ！読み聞かせ（最終回） ～読み聞かせ方 「まとめ編」～

「レッツ！読み聞かせ」も最終回となりました。これまでお届けしてきた読み聞かせのやり方を参考に、読書ボランティアや学校、地域の皆さんが新たな活動を展開していただければ・・・と願っています。

読み聞かせは、誰のためにおこなうのか？

これまでは、読んで聞かせる技術的なポイントを紹介してきましたので、それは読んで聞かせる対象、すなわち「子どもたちのため」と、言い続けてきました。

しかし、読み聞かせという行為を誰のためにおこなうのか？と言うと、実は読み聞かせをする「皆さん自身のため」です。

皆さんが学んだ「読み聞かせ」を、地域の活動として子どもたちのために活かすためです。

そして、皆さん自身が子どもと一緒に時間を楽しみ、心を癒し、読み聞かせ仲間をたくさんつくるためです。さあ、地域で、学校でどんどん読み聞かせをしましょう！「レッツ！読み聞かせ」です。

子どもたち自身が、他の人に読み聞かせをしてあげる取組も、本好きにさせるきっかけになります。中学生が小学生に、小学生が未就学児や地域のお年寄りに読み聞かせる・・・そのやり方を、読書ボランティアや先生が教えてあげるという子どもとの関わり方もいいですね。

絵本「読み聞かせ」のすごい力 10カ条（柳田邦男著 「みんな、絵本から」より）

絵本は・・・

- (1) ことば（言語力）を発達させます。
- (2) 感性・感情をきめ細かく発達（心を豊かに）させます。
- (3) 文章理解力を発達させます。
- (4) 心に絵本の内容が現実体験のように深く染み渡って記憶されます。
- (5) 子どもが、自分で時間をコントロールすることができる唯一のメディアです。
- (6) 親も心穏やかになり、やさしく子どもに接するようになります。
- (7) 子どもも心穏やかで素直になります。
- (8) 親が子どもと生身で触れ合う機会（時間の共有）を取り戻します。
- (9) 大人になってからも心のふるさとになり、生涯の心の財産になります。
- (10) 大人たちがグループで互いに読み聞かせ、心を癒すことができます。

次回からは、「ブックトーク」の紹介をします。

4 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- (振ちゃん) あと1ヶ月ちょっとで、今年も終わりだね。
- (教ちゃん) うん、本当に早いわね。今年は、どんな1年だった？
- (振ちゃん) う～ん。こうやって、僕たち2人の声を皆さんに届けることが出来て、充実した年になったよね。全県共通課題についても、知ってもらえることが出来たんじゃないかな。
- (教ちゃん) そうね。それぞれの市町村でも、今年1年の取り組みを発表し合う「集約大会」が行われるけど、その中で今年の学習状況到達度調査(質問紙調査)で調査した市町村における「家庭学習の時間」や「読書時間」のデータを公表して、話題にしてほしいわ。
- (ひろくん) そうそう、読書と言えば、先日発表されたの「社会教育調査(文部科学省)」の結果では、図書館を利用する小学生が2007年に借りた本は、平均約36冊で、過去最高だったんだ。
- (振ちゃん) あっ！本好きのひろくんだ。
- (ひろくん) 小学生は、10日に1冊の本を読んでいる計算になるんだよ。
- (教ちゃん) 県内各実践区・各小学校の子どもたちは、どうだったのかな？
- (振ちゃん) 県内すべての学校が、「まなびフェスト」にも掲げている「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」に家庭や地域と連携して取り組もうとするのが、「全県共通課題」なんだ。「教育振興運動の集約大会」や「PTAの集約会議」、「学校評議員会議」などで、今年の自分の学校や市町村の状況を話題にし、子どもたちの課題として次年度に取り組んで欲しいな。
- (教ちゃん) そうね。1年間のまとめをし、次年度の方向性を提案する集約大会・集約会議の持ち方って大切よね。

5 【みんなの声】ぺっこ言い隊

今回も楽しく読ませていただきました。

私も普段の会話の中で「はらたいらさんに3000点」と言ってますが、佐藤さんの話題を見つける努力には頭が下がるばかりです。

さて、提案です。

「教育振興運動」の取り組みは、学校教育やスポーツ健康から視点も必要と思います。生涯学習担当の佐藤さんのほかに、隔号でもいいですから学校教育やスポーツ健康の先生方にも何か書いてもらって、それを載せたらどうかと思っています。

今回は5者の中の「行政の役割」の話も出てましたから、学校教育と社会教育がしっかり連携することをアピールしていくべきかなと。

次回もよろしくお願いします。

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】 あつしのひとりごと

「もったいない」・・・「勿体」（＝物体）が「無い」。本来は、物の本体を失うことを指す言葉です。

また、「もったい」には、尊大なさまという意味もあり、それを「無し」にすることから、畏れ多く、かたじけないという「形には表れない大切なもの」への感謝とそれを失う嘆き・・・という日本人独特の精神世界を表す言葉でもあります。

福島県東白川郡矢祭町には、そんな思いが詰まった「矢祭もったいない図書館」があります。日本全国から寄贈された図書40万冊により出来あがった図書館として有名になりました。

釜石小学校の「わくわくルーム釜小たまてばこ」のいきいき文庫も、地域住民から寄贈された絵本などの図書170冊により開設されミニ図書室です。4階にある図書室とは別に、低学年が気軽に本に親しめるようにと1階につくられました。地域の図書ボランティア（桑畑恒雄会長）が寄贈された図書の整理・修繕をし、また読み聞かせもおこなっています。【岩手日報2008. 8. 22. 掲載】

千厩小学校の「放課後子ども教室」は、千厩図書館を会場とし、宿題をやったあとは自由に遊びますが、図書館で本を読んで過ごす子どもたちもいます。その千厩図書館を支える地域の友の会（菊池保会長）では、市内外から贈られた約5000冊の本を1冊10円から販売し、その益金で千厩図書館に児童書を寄贈しています。【岩手日報2009. 5. 31. 掲載】

制約された環境の中だからこそ、「もったいない」の精神が芽生え、知恵と工夫が生まれます。地域の方の協力や学校との連携で、お金をかけずに「読書活動の推進」は展開できるのですね。

「学ぶ」の語源は「まねる」から・・・。他の地域・学校の良い取組を「まねる」ところから始めても良いと思います。

⇒ 第10号は、12月8日（火）配信です。

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★教育振興運動に関する資料は、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をおあなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使っての  
自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

~~~~~